

SME版質問書： 気候変動

グループサポートトレーニング

2026年6月



留意事項

- 本トレーニングは、SME版質問書の「気候変動」に関するセッションです。「水セキュリティ」や「フォレスト」に関するトレーニングをご希望の場合は、「SME版質問書:水セキュリティ・フォレスト」をご確認ください。
- よくあるご質問は動画終盤でご確認いただけます。その他ご質問は、CDPヘルプセンターへお問い合わせください。
- 本トレーニングの無断掲載は禁止しております。



アジェンダ

1. SME(中小企業)版質問書の対象

2. 完全版質問書とSME版質問書の主な違い

3. 重要データの収集と報告

4. SMEスコアリングの概要

5. 開始ステップと主なリソース、Q&A

1. SME(中小企業)版質問書の対象



中小企業の情報開示



主要な経済主体

中小企業は全企業の最大90%を占めており、銀行からの資金調達に大きく依存しています。しかし、主流の環境報告慣行や規制からは、その多くが除外されています。



グローバル・バリューチェーンにおける主要なプレーヤー

中小企業が主流の環境報告からほとんど除外されているため、多くのキャピタルマーケットや購入者は、ポートフォリオやサプライチェーン全体にわたるリスク、機会、影響の全容について十分な洞察を持っていません。



将来の要件への対応

CDPIは2024年、SME版の専用質問書を導入しました。質問数を減らし、形式を簡素化し、ガイダンスを充実させたCDPのSME版質問書は、中小企業のリソースに最適化されています。

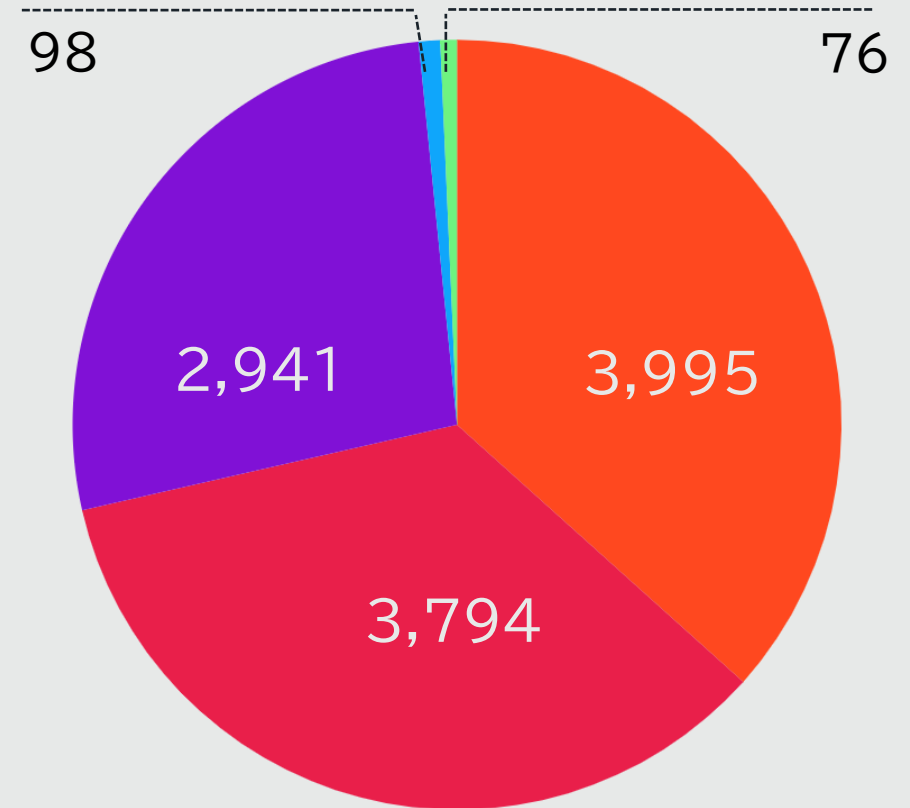




CDPのSME版質問書は、
中小企業が高品質な環境データ
を開示できるよう支援します。

2025年には、SME版質問書を通じて
10,900社以上が開示を行いました。

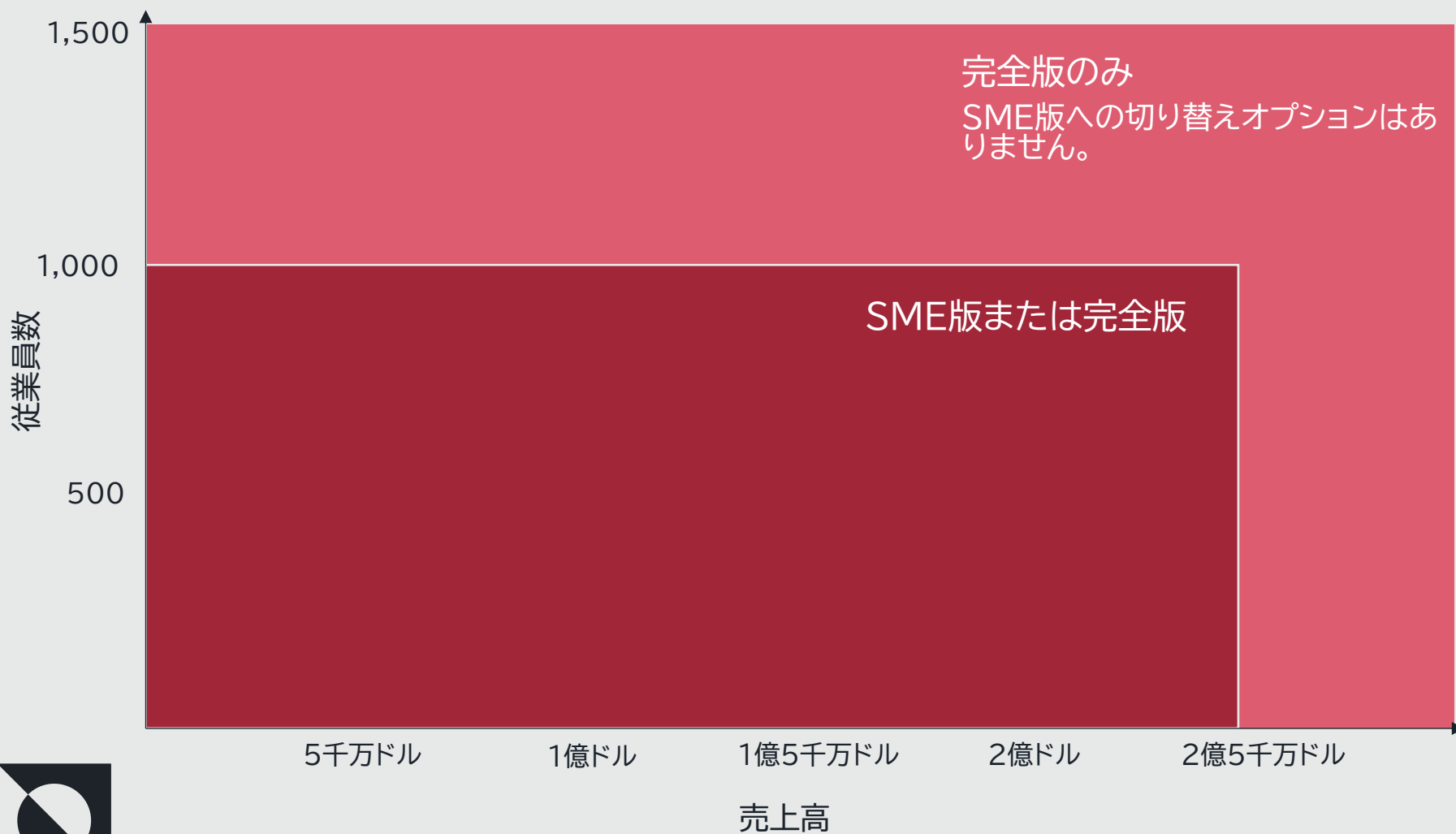
SME版質問書回答者の**65%**が、
2025年の開示体験は2024年より
も良かったと回答しました。



2025年の地域別SME版質問書開示状況

Europe Asia Americas Oceania Africa

企業規模に合わせた2つの質問書(完全版・SME版)



質問書の対象条件:





- SME版または完全版:
正規従業員数 < 1,000名 かつ
売上高 < 2億5,000万米ドル
- 完全版(SME版への切り替えオプションなし):
正規従業員数 > 1,000名 または
売上高 > 2億5,000万米ドル

注:RE100から要請を受けた企業は、SME向け質問書の対象外となります。



環境課題の適用範囲

SME版質問書

環境課題	情報開示者
 気候変動	すべての企業(中小企業を含む)。
 フォレスト	以下のいずれか1つ以上を満たす場合、開示を行う中小企業。
 水セキュリティ	1. CDPからの要請(例:キャピタルマーケット署名機関からの要請、サプライチェーンからの要請、銀行からの要請など)。これは、要請元がフォレスト、水セキュリティ、またはその両方に関するデータを具体的に提出するよう求めたことを意味します。 2. フォレスト/水セキュリティへのオプトイン。
 プラスチック 海洋 生物多様性	中小企業には適用されません。



質問書の設定フロー

貴組織について	報告年度の年間売上高(米ドル)
	従業員数(スタッフ数)
	完全版またはSME版質問書のどちらを使用するか
活動分類	CDP活動分類システム(ACS)に基づく事業活動
環境課題の評価	フォレスト、水セキュリティ、プラスチック、海洋に関連する依存関係、影響、リスク、および／または機会の評価と特定
提出の意思	気候変動に関する開示要請を受けたため
	その他の環境問題に関する開示要請を受けたため
	開示要請を受けていないが、自主的に開示
追加情報	コモディティ・原材料に関する開示
	報告期間中の鉱山および鉱業プロジェクトの操業



SME版質問書の対象

- 質問書は従業員数、売上高、ACS分類に基づき設定。
- リスクや機会、ガバナンス、戦略など、カスタマイズされた統合データポイント。
- サプライチェーン固有の質問事項
(質問書全体に分散して記載)
- カスタマイズされた環境パフォーマンス:
気候変動、**フォレスト**、**水セキュリティ** モジュール。
- 気候変動に関する**SME A**スコアが新設。



2026年版SME質問書に以下は含まれません:

- 業界固有の内容やバリエーション
- プラスチックおよび生物多様性に関する項目
- 枠組みへの必須の整合性
および基準への準拠義務

開示のロードマップ(参考)

フェーズ1: 基盤の構築



サプライヤーはCDPを通じて情報を開示する。
(部分的な回答も可)



排出量を算定し、
報告する。

フェーズ2: 能力構築



排出量削減目標を設定する。



排出量削減活動を
報告する。

フェーズ3: パフォーマンス向上



取引先と連携して
排出量を削減する。



排出量を削減し、
低炭素経済を推進する。

SBTおよびネットゼロ目標
を設定する。

2. 完全版質問書とSME版質問書の主な違い

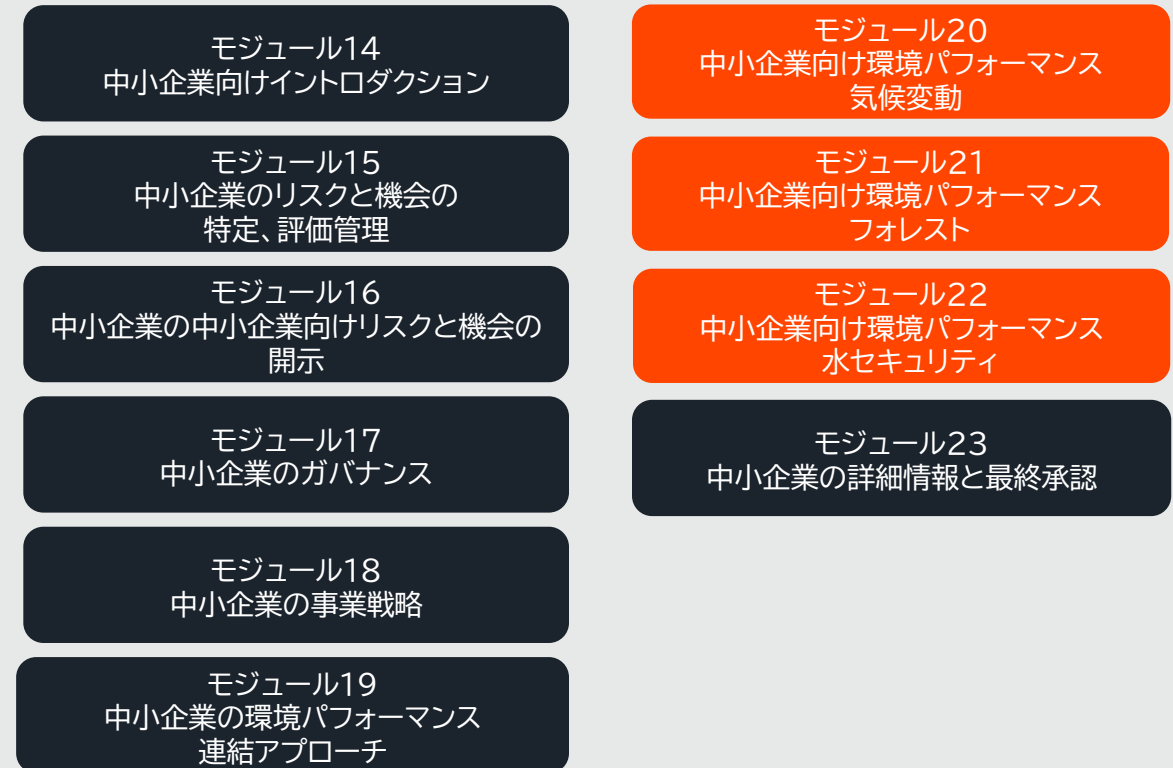


コーポレート質問書:完全版およびSME版

完全版質問書(全項目)*



SME版質問書*



■ 統合モジュール

■ 特定の環境課題に特化したモジュール



*質問票の構成が若干変更される可能性があります

完全版とSME版の質問番号対応表

初回開示時にメンバーが優先する質問(データポイント)

	SME版質問書	完全版企業質問書
スコープ1、2、3の排出量	20.4、20.5、20.7	7.6、7.7、7.8
検証	20.8	7.9、7.9.1、7.9.2
排出量の配分	20.12	7.26, 7.45
目標	20.16、20.16.1 または 20.16.2	7.53、7.53.1/7.53.2
排出削減活動	20.17	7.55.2
エネルギー消費量	20.15.2	7.30, 7.30.1

中小企業(SME)により適した形に質問を再設計した例:

- 完全版(4.1) - 貴組織には取締役会レベルで環境課題に責任を負っていますか？
- SME版バージョン(17.1) - 貴組織では、環境課題に責任を負っていますか。



3. 重要なデータの収集と報告



モジュール14: 中小企業向けイントロダクション

「WHEN」－報告期間および基本情報



算定の開始日と終了日

14.4 *(必須列)

データの報告年の終了日を入力してください。

この質問により、背景情報を明確にすることができるようになり、組織の環境対策における進歩について、年次推移を一貫した方法で評価することが可能になります。これは、透明性と説明責任を高め、データ利用者が報告期間と関連した回答を解釈するのに役立ちます。



どの期間を報告すれば良いですか？

炭素会計のベストプラクティスでは通常、**財務諸表(例:2025年度)に対応する会計年度**に準拠します。

これは、次の質問(Q.14.5)における開示の**報告範囲**の設定についても同様です。

理由: 排出効率(例:原単位)を決定するために、同じ期間の財務データの輸入を必要とする指標があります。
これは、ISSB基準および GHGプロトコルに準拠したベストプラクティスにも従っています



モジュール14の準備

- 中小企業向けイントロダクションモジュールは、質問書の基礎となります。
 - 報告された内容は、通貨、報告期間、報告範囲を含め、回答全体に適用される必要があります。
- スコアリング言語: 英語、中国語、日本語、ポルトガル語、スペイン語(注:「その他、ご指定ください」を選択した場合、回答はスコアリングされません)。
- 報告年度は通常、会計年度と一致します。
- 質問書を効果的に記入するには、サステナビリティチーム、調達チーム、財務チーム間の連携が必要です。



必要となる可能性のある書類:

- 財務諸表
- 組織の概要



モジュール15&16:

「WHY」—中小企業向けリスクと機会の
特定、評価、および管理



なぜリスクと機会なのか？

リスク



6.1兆ドル

開示企業によって報告された
気候関連リスクの総額

中小企業は、環境問題に起因する環境**リスク**を含め、多様なリスクに対し脆弱であることが指摘されています。

強固なリスク評価と管理体制を構築することで、**ビジネスのレジリエンス(回復力)**が強化されます。これは銀行や貸し手にとって、ますます重要になっています。

機会



10.4兆ドル

開示企業によって特定された
気候変動関連の機会。

中小企業は規模が小さく柔軟性があり、**環境ソリューション**の提供に向けたイノベーションを起こす能力を持っています。

確固たる機会の特定と管理を行うことで、**競争優位性を確保し、機会を最大限に活用**できるようになります。



中小企業向けリスクと機会の特定 - プロセス

- モジュール14
中小企業向けイントロダクション
- モジュール 15
中小企業向けリスクと機会の特定、評価および管理
- モジュール16
中小企業向けリスクと機会の開示
- モジュール17
中小企業向けガバナンス
- モジュール18
中小企業向け事業戦略
- モジュール19~22
中小企業向け環境パフォーマンス
- モジュール23
中小企業の詳細情報と最終承認

モジュール15: 中小企業向けリスクと機会の特定、評価
および管理

中小企業向けリスクと機会の特定、評価および管理のための
プロセス

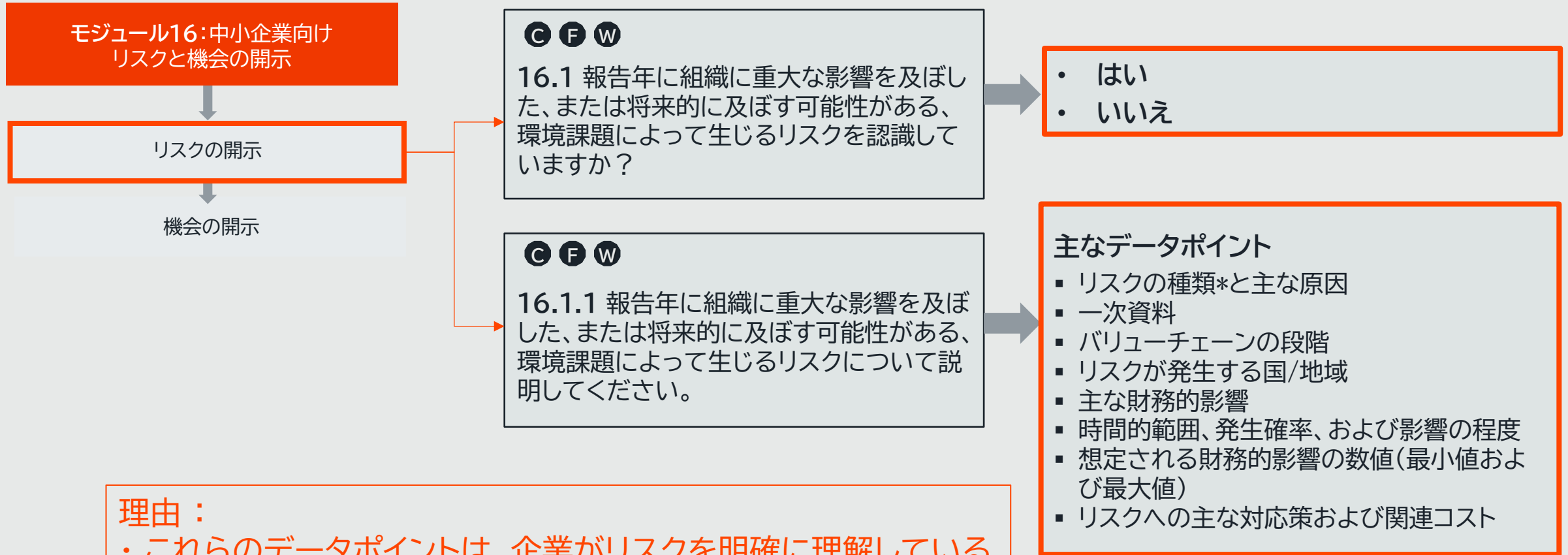
C F W

15.1 貴組織には、環境上のリスクや機会
への影響を特定、評価、管理するプロセス
がありますか。

- 主要なデータポイント
- 評価の頻度
 - プロセスを説明してください



リスクの開示



理由：

- これらのデータポイントは、企業がリスクを明確に理解していることを示すのに役立ちます。
- ベストプラクティスでは、リスクによる潜在的な財務的影響と、それに対応するためのコストを定量化できる企業の能力が重視されます。

*リスクの種類には、政策リスク、賠償責任リスク(法的請求)、技術リスク、市場リスク、評判リスク、突発的な物理的リスク、および慢性的な物理的リスクなどが含まれる。



機会の開示

モジュール16: 中小企業向け
リスクと機会の開示

リスクの開示

機会の開示

C F W

16.3 報告年に組織に重大な影響を及ぼした、または将来的に及ぼす可能性がある、環境課題によって生じる機会を認識していますか？

- はい
- いいえ

「はい」の場合、

C F W

16.3.1 報告年に組織に重大な影響を及ぼした、または将来的に及ぼす可能性がある、環境課題によって生じる機会について説明してください。

主要データポイント

- 機会の種類*と主要要因
- 一次資料
- バリューチェーンの段階
- 機会が発生する国/地域
- 主な財務的影響
- 時間の範囲、発生確率、影響規模

理由: これらのデータポイントは、企業がその機会を明確に理解していることを示すのに役立ちます。

*機会の種類には、資本の流れと資金調達、エネルギー源、市場、製品・サービス、評判資本、レジリエンス、資源効率、その他などが含まれます。



モジュール15・16の準備



・リスクと機会の定義と特定、評価、管理のプロセスについては、自社のリスク管理部門にご相談ください。

・包括的なリスク評価がない場合でも、次の詳細を提供してください。

○ カバーするバリューチェーン

○ リスク/機会の種類

○ 時間軸

○ 影響の可能性と規模

○ リスク対応

・重要な情報を提供した後、次のステップはリスクの影響を定量化することです。



※ 詳細は概算・わかる範囲で問題ありません。

必要となる可能性がある書類:

- リスク登録簿
- 組織のリスク管理方針
- 事業継続計画(BCP)またはシナリオ分析文書
- 新たな規制やコンプライアンス監視に関する情報
- 最新の業界動向および市場見通しに関する理解
- マーケティング調査および取引先インサイト
- 同業他社とのベンチマーク分析
- 施設レベルでの過去の障害記録(例:異常気象の影響)

モジュール17: 中小企業向けガバナンス

「WHO」 - 環境問題に関するガバナンス構造



中小企業向けガバナンス

企業における気候ガバナンスとは？

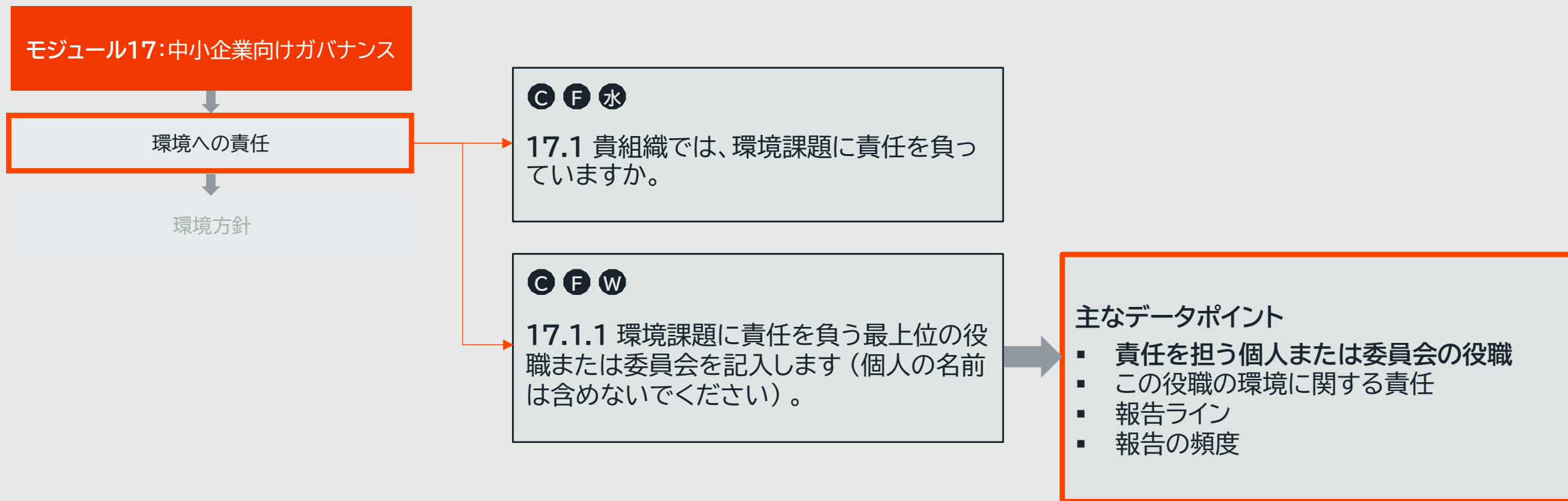


- ガバナンスとは、気候変動関連の問題に関する内部の監督および意思決定を指します。
- このセクションの質問は、既存のガバナンス体制や仕組みを把握するのに役立ちます。
- ガバナンスに関するデータは、組織にとって気候変動がいかに重要であるかを示す指標となるため重要です。

理由:このセクションは、取締役会および経営・マネジメントレベルでの気候問題に対する高レベルのアプローチを理解するためのものです。



環境への責任



補足：

- ・ これらのデータは、企業において誰かが気候変動関連の問題を監視し、注視していることを示します。
- ・ ベストプラクティスでは、企業の上級管理職が取締役会に直接報告する体制を整え、少なくとも四半期ごとに環境問題について報告することが重要視されています。



環境方針

環境方針の目的は何ですか？



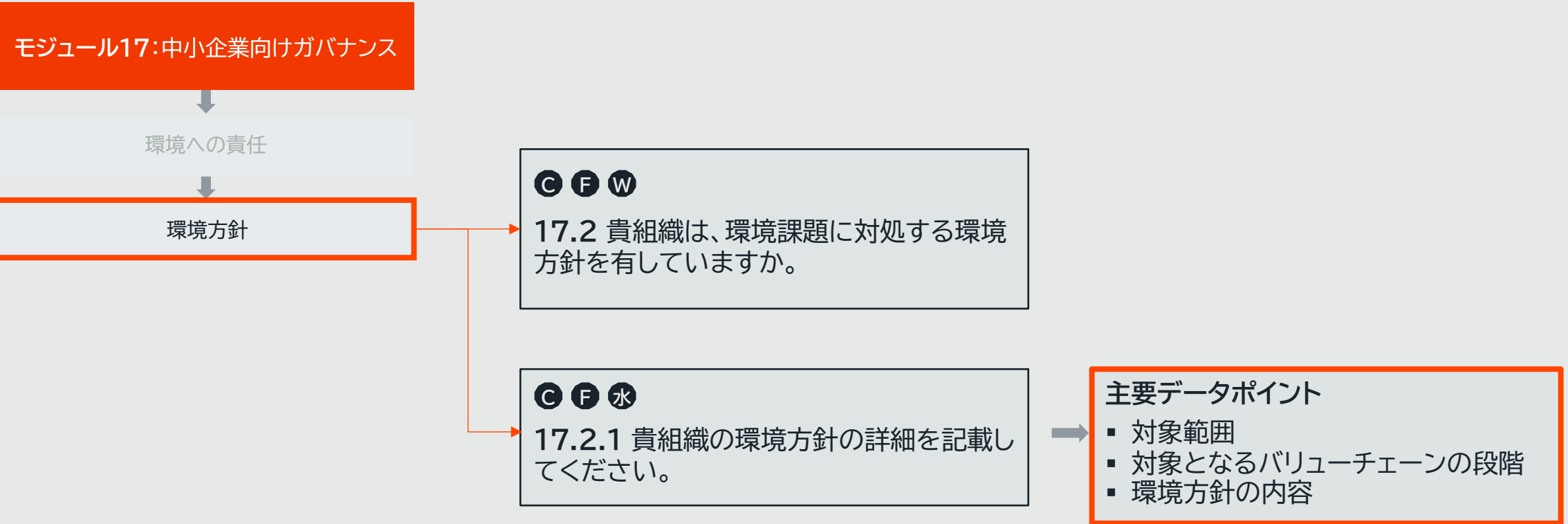
環境方針

- 行動を推進するための基礎的なガバナンスツール
- 説明責任を確保する。
- 組織の環境に対する責任を示す。

理由:環境方針は、組織が環境問題に伴うリスクと機会を認識し、企業の意図と行動の方向性を示す手段です。一般的に、公開することが推奨されています。



環境方針



補足: ベストプラクティスでは、組織およびそのバリューチェーンに関連する環境リスクと機会に対処する方針を、企業が公開していることが望ましい。



モジュール17の準備

- 組織内で環境問題の監督責任を負う最高責任者を指定してください。
 - 場合によっては実務委員会が担当することもあり、必ずしも個人である必要はありません。
 - 報告系統および頻度を明記してください。
- 環境方針とは、組織の環境パフォーマンスに関する目標や計画を表明し、伝達する声明です。
 - 複雑である必要はありませんが、組織の環境へのコミットメントが含まれ、上級管理職によってレビューされる必要があります。



必要となる可能性のある書類:

- 組織図(ESG、サステナビリティ関連の役割)
- サステナビリティに関する責任を明記した職務記述書
- 年次報告書
- 組織の環境方針
- コンプライアンス報告書または監査報告書



モジュール18: 中小企業向け事業戦略

「HOW」－ 行動を示す移行計画、財務計画



気候変動対策



気候変動移行計画

気候移行計画とは、自社のビジネスモデルを1.5～2.0度の世界に適合させるためのすべての取り組みを示す集大成です。

これは、説明責任と透明性のメカニズムとして機能するため、企業が行うすべての行動を含む必要があります。

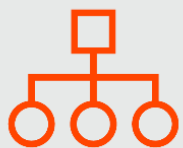


財務計画

気候変動に伴うリスクと機会を特定した企業にとって、この知見は将来の財務計画に影響を与える可能性があります。



バリューチェーンエンゲージメント



バリューチェーンのエンゲージメントとアクション

バリューチェーンのステークホルダーと関わることは、知識の共有、専門知識の構築、リスク管理の強化、環境への影響に対処するための行動をとる上で特に重要です。

例としては、社内での教育、サプライヤーとの環境に配慮した調達、サステナビリティの実践や製品に関する消費者への教育などが挙げられます。

補足: バリューチェーンへの関与に関するデータは、ユーザーが、御社がいかにスコープ3排出量を扱っているかを理解するために不可欠であり、気候変動に関してバリューチェーンと協力する機会となります。

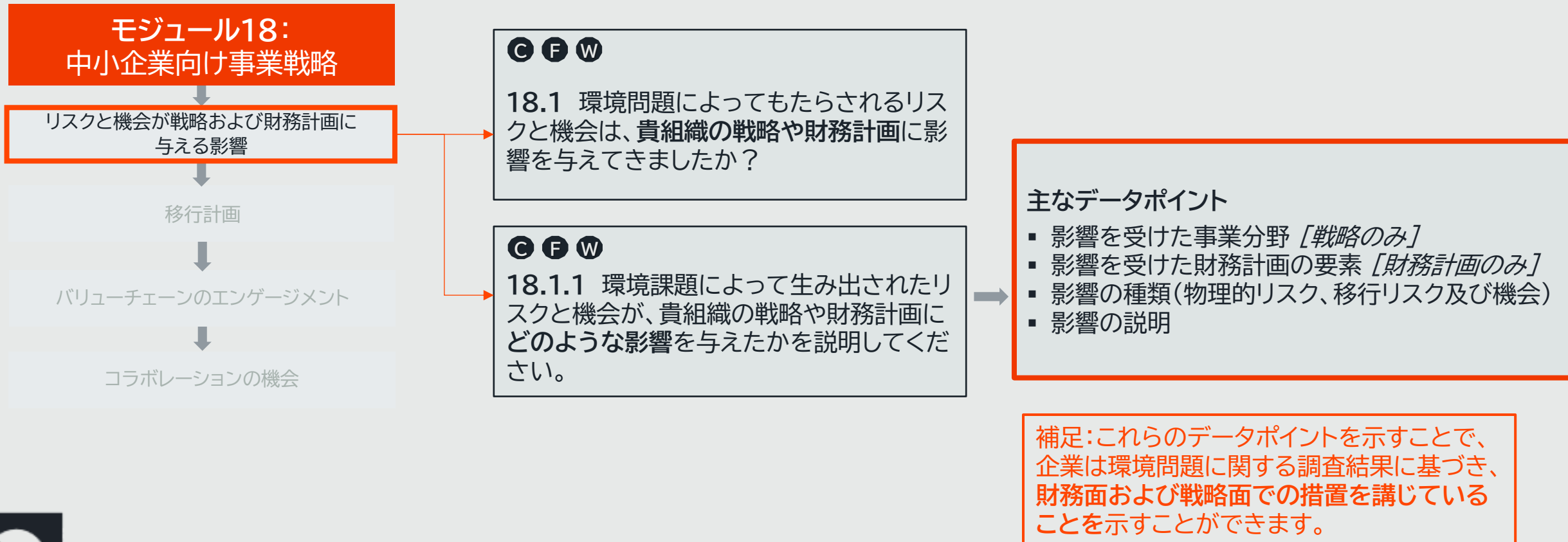


自社のバリューチェーンとは？

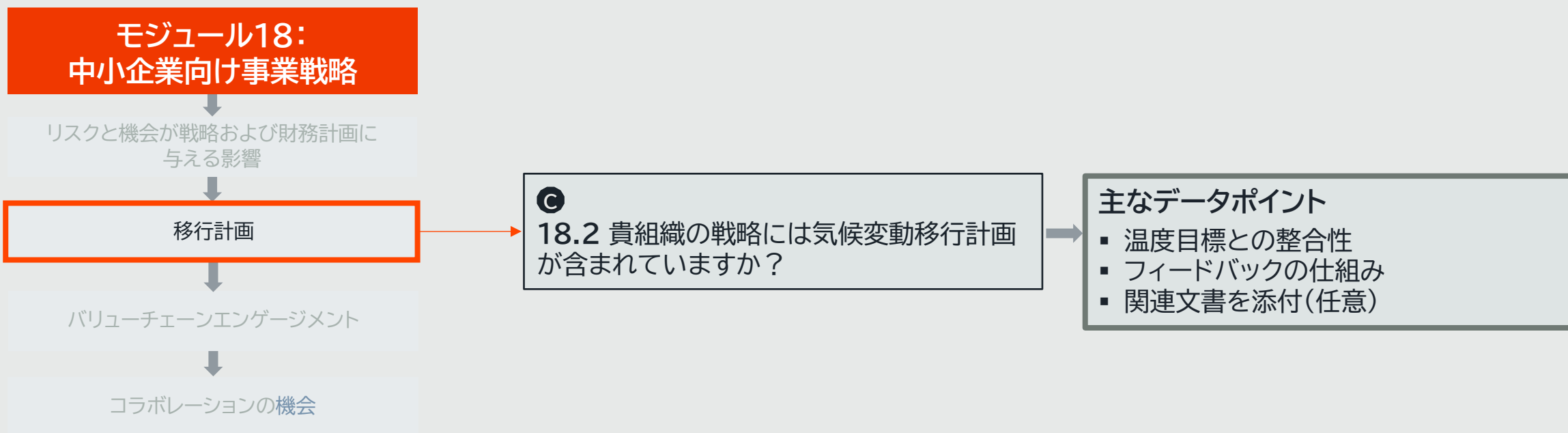
バリューチェーンとは、資源採掘から消費の最終段階までのビジネスチェーン全体を指します。現在の活動には通常、Tier 1 関係（直接のコンタクト）が含まれますが、野心的な取組はTier1を超えることが求められます。



戦略と財務計画



気候変動移行計画



補足: これらのデータポイントは、優れた移行計画における重要な特徴のいくつかを示すのに役立ちます。

ベストプラクティスとして、企業が移行計画を策定するだけでなく、その移行計画が 1.5°C 目標(または 2°C を大幅に下回る目標)に沿ったものであり、かつ一般に公開されていることが挙げられます。



バリューチェーン・エンゲージメント

モジュール18: 中小企業向け事業戦略

リスクと機会が戦略および財務計画に与える影響

移行計画

バリューチェーン・エンゲージメント

コラボレーションの機会

C F W

18.3 環境課題について、バリューチェーン内のサプライヤー、取引先、その他の関係者と連携していますか？

主要なデータポイント

- バリューチェーンのステークホルダーごとのエンゲージメント有無
- エンゲージメントの種類
- エンゲージメントの詳細

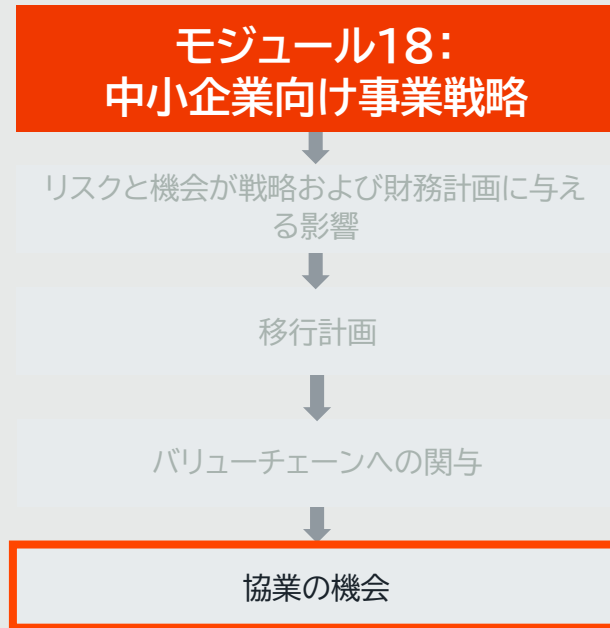
補足: 環境問題に関してバリューチェーンと連携している場合、これらのデータポイントは御社の成熟度を示すのに役立ちます。

ベストプラクティスとして、企業が環境問題に関するバリューチェーン・エンゲージメント戦略を策定し、バリューチェーンのステークホルダーや環境にプラスの影響を与えるよう、バリューチェーン・エンゲージメントを実践している状態を指します。これには、サプライヤー、取引先、投資家、株主などが含まれます。



コラボレーションの機会

*CDPを通じて取引先からサプライチェーンに関するリクエストを受けた場合



C F W

WCF18.4 特定のCDPサプライチェーンメンバーと協力できる、相互に利益のある環境イニシアチブがあれば、示してください。

サプライチェーンメンバーに要請された場合のみ
表示される質問

C F W

18.5 貴組織は、CDPサプライチェーンメンバーのエンゲージメントにより、双方にとって有益な環境イニシアチブをすでに実施していますか。

サプライチェーンメンバーに要請された場合のみ
表示される質問

C F W

18.5.1 貴組織を双方にとって有益な環境イニシアチブの実施へと促したCDPサプライチェーンメンバーを特定し、そのイニシアチブに関する情報を記入してください。

サプライチェーンメンバーに要請された場合のみ
表示される質問

これらは、コラボレーションの機会を探しているサプライチェーンメンバーの要請を受けた企業にとって重要なデータポイントです。



モジュール18の準備



- 新たな規制などの新たなリスクは、組織戦略や財務計画に影響を与える可能性があり、環境面での機会も同様です。
 - 経営陣と協議し、戦略・財務計画が環境課題に影響されているかどうかを示します。
- 気候移行計画は、組織が気候目標を整合するのに役立つツールです。これは、進捗状況を追跡するための具体的な戦略と明確な説明責任のメカニズムを確立することによって実現されます。
 - 温度目標との整合性
 - 公開されているかどうか
 - フィードバックの仕組み
- バリューチェーンの取り組みについて調達チームと協力する。

必要となる可能性のある書類：

- リスク登録簿
- 環境関連の規制および基準に関する最新情報
- 気候変動対応計画
- サプライヤー行動規範
- 持続可能な調達方針
- サプライチェーンマッピング文書
- 費用対効果またはROI分析
- 財務予測および予算計画





モジュール19&20: 中小企業向け環境パフォーマンス

「WHAT」ー連結アプローチと気候変動



排出データ – 報告の基礎



炭素排出量

このデータの測定と報告は、企業の気候への影響(直接的・間接的を問わず)を測る重要な指標です。

これは、社用車や製造プロセスなど、企業の消費データを用いて算出されます。

補足: 炭素排出量は、企業の環境への影響を示す主要な指標であり、気候変動報告の基礎および基盤となります。事業部門ごとに算定する必要があります(事業部門が複数ある場合)。



モジュール19の準備

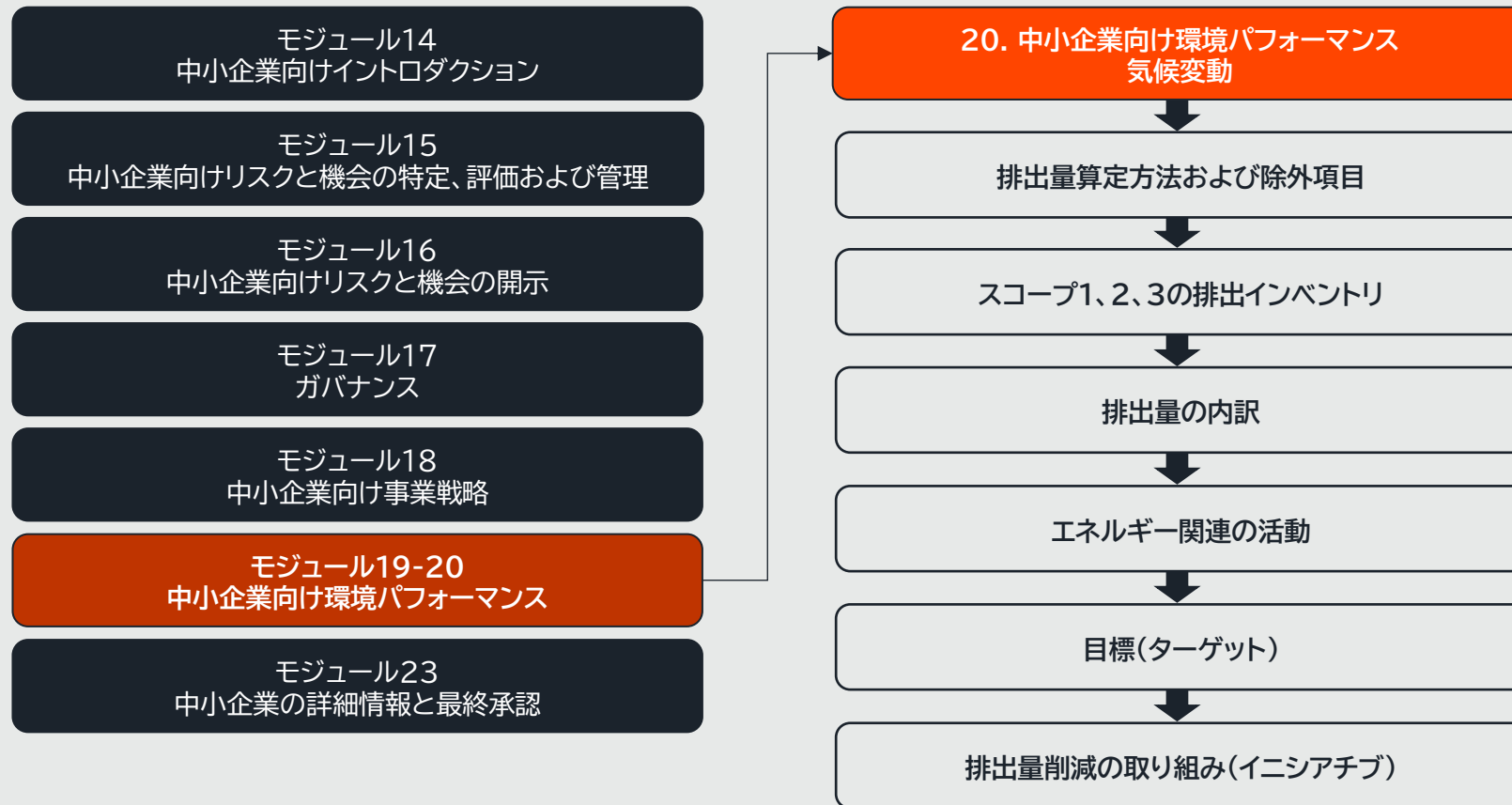
報告範囲をどのように決定するか？

- 統合アプローチにより、環境パフォーマンスデータの算定対象となる事業体を特定し、炭素排出量の開示に関連する情報を決定する必要があります。
- 統合の方法を決定する際は、法律または会計の専門家に相談してください
- リース契約については、[『GHGプロトコル』の付録「リース資産からの温室効果ガス排出量の分類」](#)および関連する一般に公正妥当と認められた会計原則(GAAP)のリース会計基準を参照し、それらの排出量について適切な範囲を決定してください。

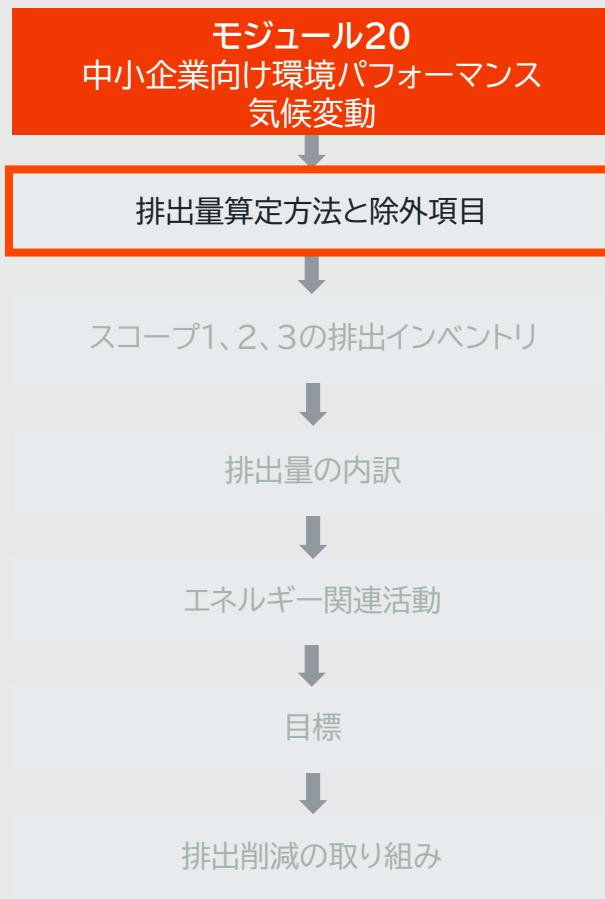
アプローチ	定義	温室効果ガスの算定
出資比率基準 (Equity Share approach)	所有権の割合	所有率
財務支配力基準 (Financial Control)	経済的利益を得るうえで、資産の所有にともなうリスクとリターンを負う	「はい」の場合:100% 「いいえ」の場合:0% 共同所有の欄:所有率
経営支配力基準 (Operational Control) (ほとんどの中小企業はこの選択肢を選んでいきます)	運営方針を導入し実施する権限	「はい」の場合:100% 「いいえ」の場合:0%



モジュール20: 中小企業向け環境パフォーマンス- 気候変動



排出インベントリと算定方法



20.1 組織の温室効果ガス（GHG）排出量を評価していますか？ 炭素会計ツールを使用して、排出量を測定したり推定したりできます。



20.2 活動データの収集および排出量の計算に使用した基準、プロトコル、または方法論の名称を選択してください。

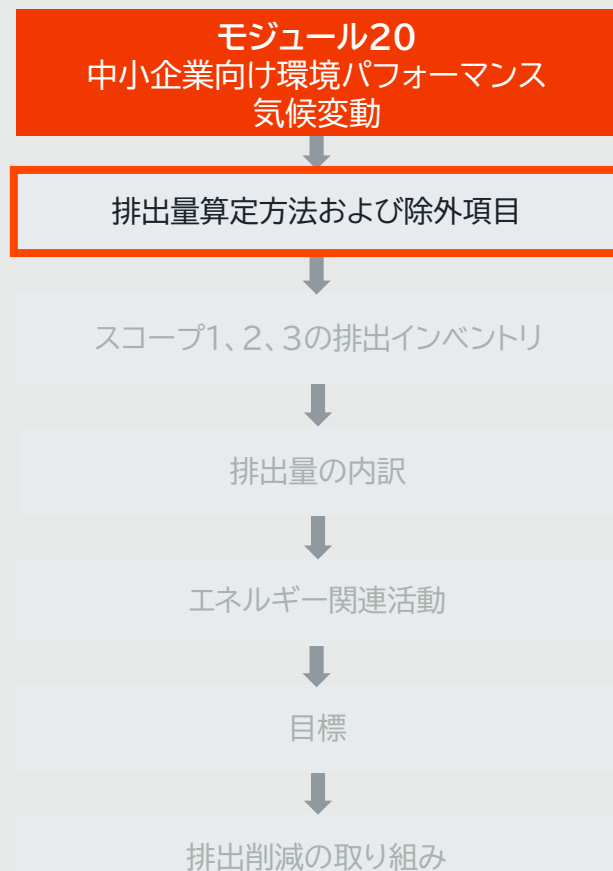
主なデータポイント

- スコープ1、2、3の温室効果ガス排出量の評価
- スコープ2のアプローチ
- 主な障壁や課題
- 課題の管理・解決に向けた主な措置
- 過去の報告年度の排出量データ

補足:これらのデータポイントは、排出インベントリの概要を把握するのに役立ちます。



排出量算定方法および除外項目



©
20.3 スコープ1、スコープ2、またはスコープ3の排出量のうち、[気候関連データの開示]に含まれていない排出源（例：施設、特定の温室効果ガス、活動、地域など）はありますか。

©
20.3.1 開示に含まれていないスコープ1、スコープ2、またはスコープ3の排出量の排出源について、詳細を提供してください。

主なデータポイント

- 除外された排出源
- 除外する排出源のスコープ1,2,3との関連
- この排出源からの推定排出量

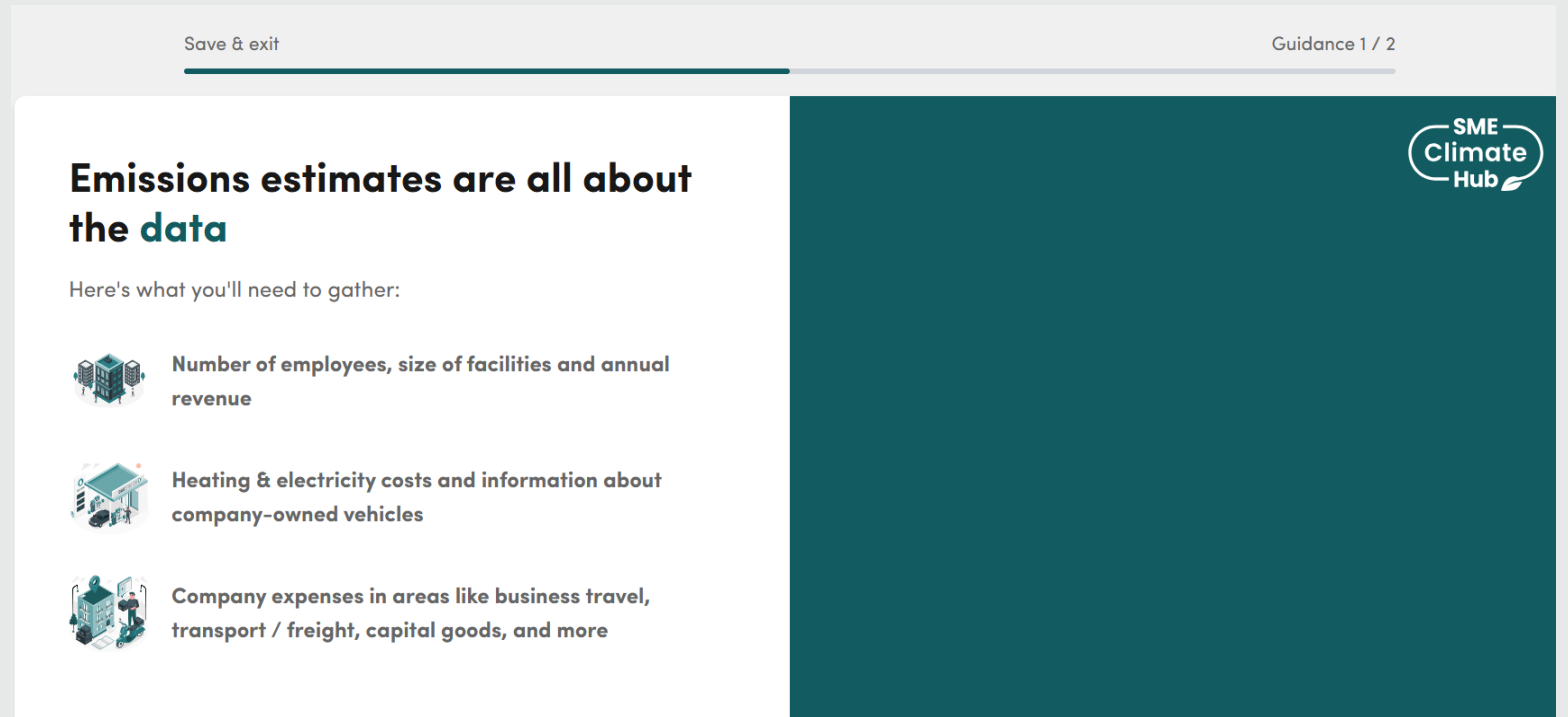
補足:これらのデータは、特定の排出源が除外されている理由を説明するのに役立ちます。
ベストプラクティス:組織が報告範囲からのすべての除外事項について報告し、開示から重要な除外事項がない場合。






ビジネス向け炭素計算ツール： SME Climate Hubについて

計算ツールは[こちら](#)

- 無料でご利用いただけます
- ステップバイステップのデータ入力で操作が簡単
- スコープ1、2、3の算出が可能
- すべての計算ツールその計算手法を明記する必要があります。



The screenshot shows a user interface for the SME Climate Hub. At the top, there are two buttons: "Save & exit" on the left and "Guidance 1 / 2" on the right. The main content area has a white background with a dark teal header on the right side containing the "SME Climate Hub" logo. The text reads: "Emissions estimates are all about the data". Below this, it says "Here's what you'll need to gather:" followed by three items, each with an icon and a description:

-  Number of employees, size of facilities and annual revenue
-  Heating & electricity costs and information about company-owned vehicles
-  Company expenses in areas like business travel, transport / freight, capital goods, and more

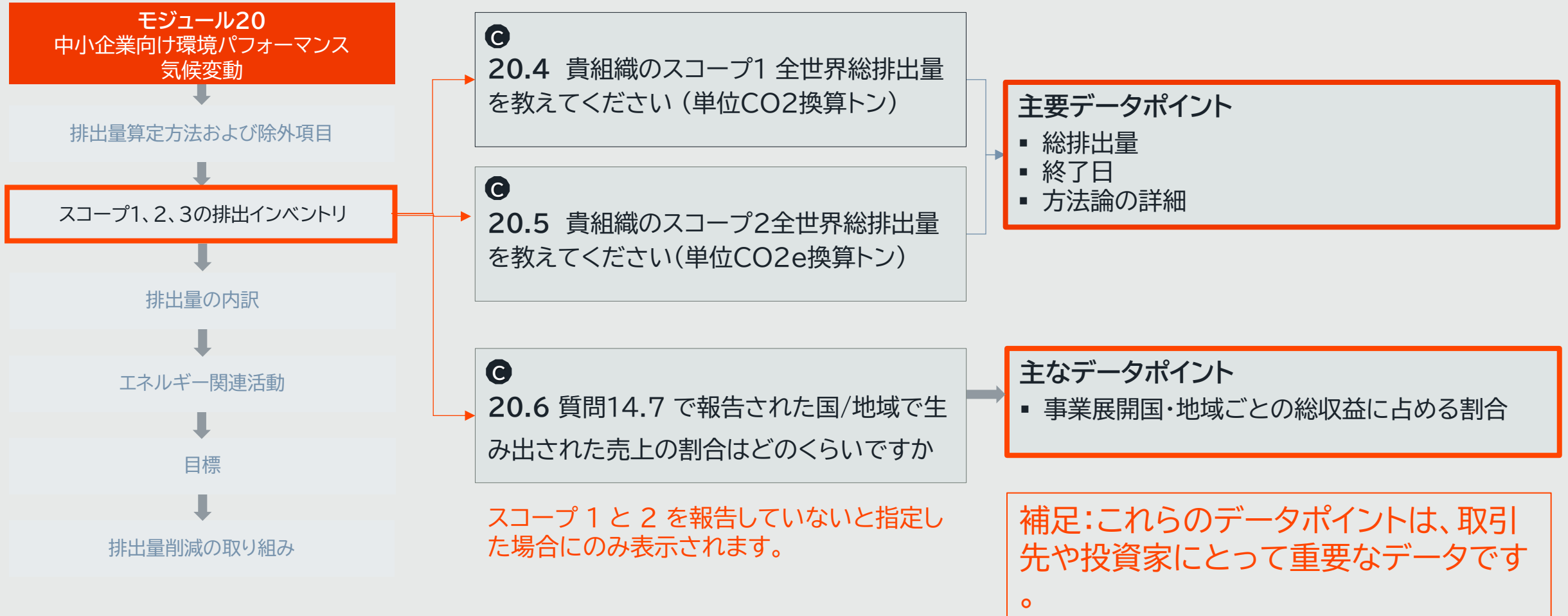


モジュールの準備

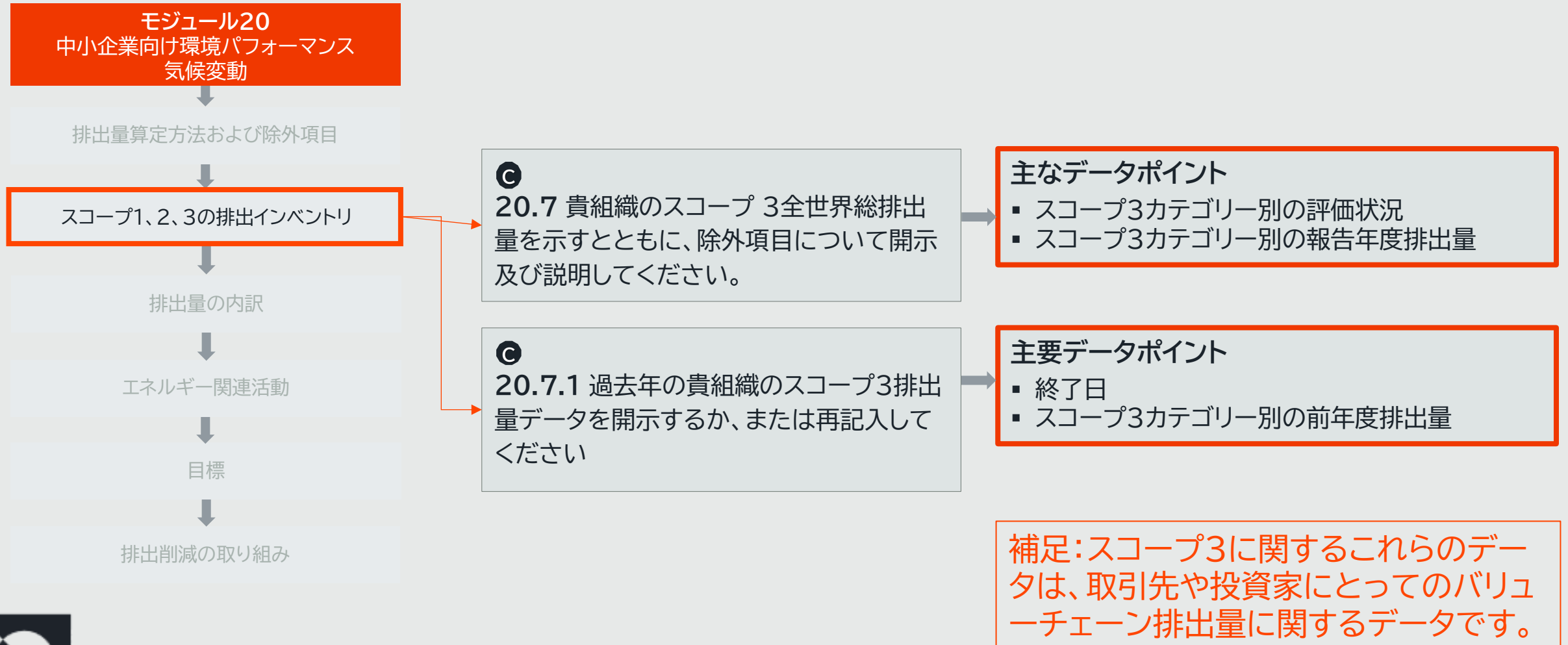
- 排出量の評価を開始するには、SME Climate Hub でツールとリソースを調べてください。ビジネスカーボン 計算(スコープ1、スコープ2、上流のスコープ3排出量のみをサポート)など、多くのリソースが利用可能です
 - 使用された方法論[はこちら](#)でご確認いただけます
- スコープ2報告アプローチ
 - **ロケーション基準**の方法では、報告組織に電力を供給する電力網の平均排出係数を考慮します(主にグリッド平均排出係数データを使用)
 - **マーケット基準**の方法では、企業が購入の決定を通じて責任を負う排出量が表示されます。報告組織が再生可能エネルギーなどの特定の供給者または供給源から電力を調達する契約上の取り決めを考慮します。
 - SME版のみ「スコープ2の数値を報告しているが、どのアプローチが使用されたか分からない」というオプションが利用可能です(ただし極力使用しないことを推奨)



排出インベントリ(内訳)



排出インベントリ(内訳)



モジュール20の準備： 排出量計算

- 初めてのの方は、Business Carbon Calculator を出発点としてご利用ください。
 - 排出係数は、政府のデータベース、学術研究、企業報告書、および規制開示情報から抽出されています
 - しかし、ユーザーは実際に使用された数値を把握できません。
- 正確な排出インベントリを作成するには、自社で計算することが重要です
 - **ステップ1:**組織の境界(バウンダリ)を設定する
 - **ステップ2:**排出源を特定する
 - **ステップ3:**活動データを収集する
 - **ステップ4:**排出係数を収集する
 - **ステップ5:**排出量を計算する



必要となる可能性のある書類：

- 活動データ(例：
 - 電気料金請求書
 - 社用車の燃料消費記録
 - 従業員の出張記録
- 排出係数
- GHGプロトコル
<https://ghgprotocol.org/calculation-tools>
- IPCC排出係数データベース(EFDB)
<https://www.ipcc-nggip.iges.or.jp/EFDB/main.php>



モジュール20の準備： CO₂eとは？(GWP)



- **地球温暖化係数 (GWP)**

- 特定の温室効果ガスの相対的な温暖化影響
- 二酸化炭素換算量(CO₂e)の算出に使用される
- IPCC第5次評価報告書、2014年 -

[https://www.ghgprotocol.org/sites/default/files/ghgp/Global-Warming-Potential-Values%20%28Feb%2016%202016%29 1.pdf](https://www.ghgprotocol.org/sites/default/files/ghgp/Global-Warming-Potential-Values%20%28Feb%2016%202016%29%201.pdf)

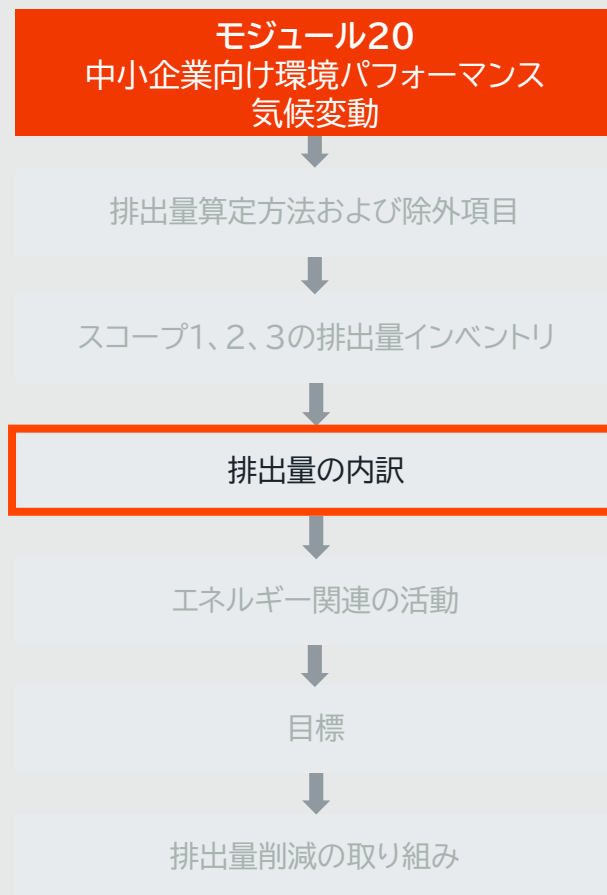
- IPCC第6次評価報告書 地球温暖化係数(小規模な更新) -
<https://erce.energy/erceipccsixthassessment/>

参考: GHG排出量算定 (入門編)



排出インベントリ(内訳)

*CDPサプライチェーンの要請を受けた企業限定



©
20.12 本報告対象期間に販売した商品またはサービス量に応じて、貴組織の排出量を以下に示す取引先に割り当ててください

サプライチェーンメンバーに要請された場合のみ表示される質問

©
20.13 排出量を取引先ごとに割り当てる際の課題と、その課題を克服するために役立つことは何ですか？

サプライチェーンメンバーに要請された場合のみ表示される質問

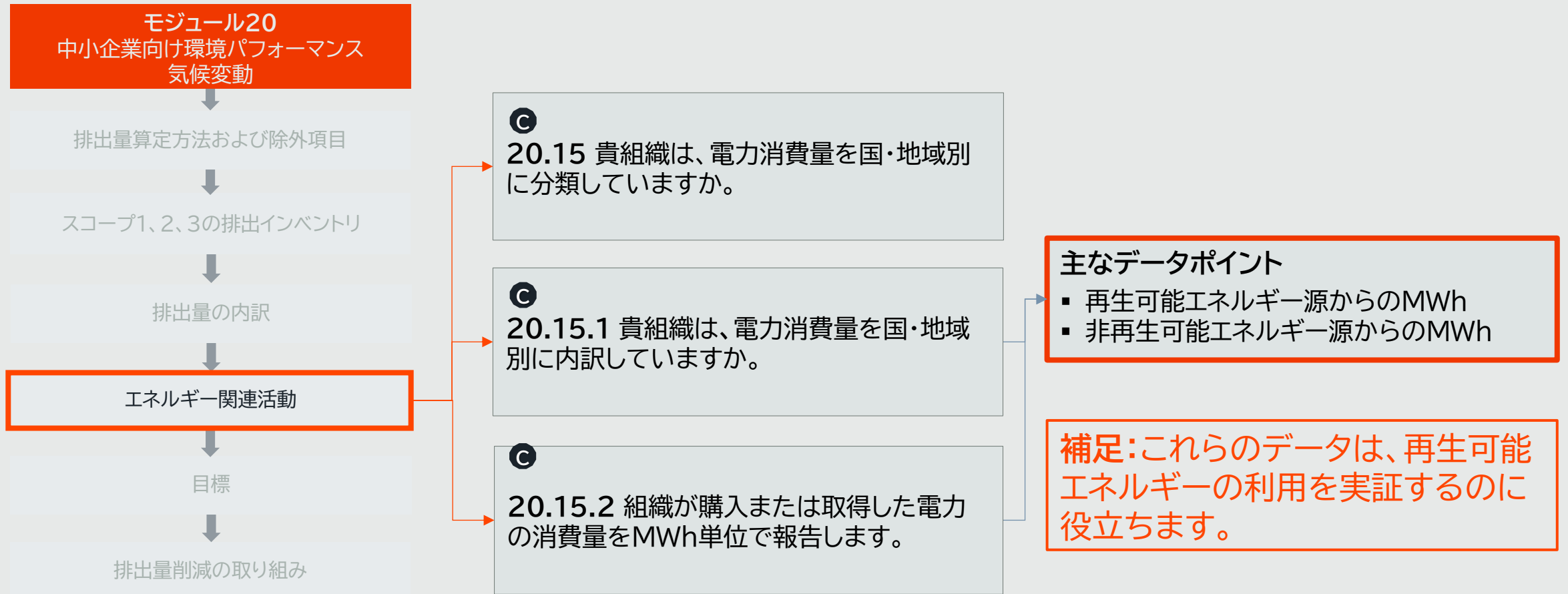
©
20.14 今後、取引先ごとの排出量を割り当てられるようにする計画はありますか

サプライチェーンメンバーに要請された場合のみ表示される質問

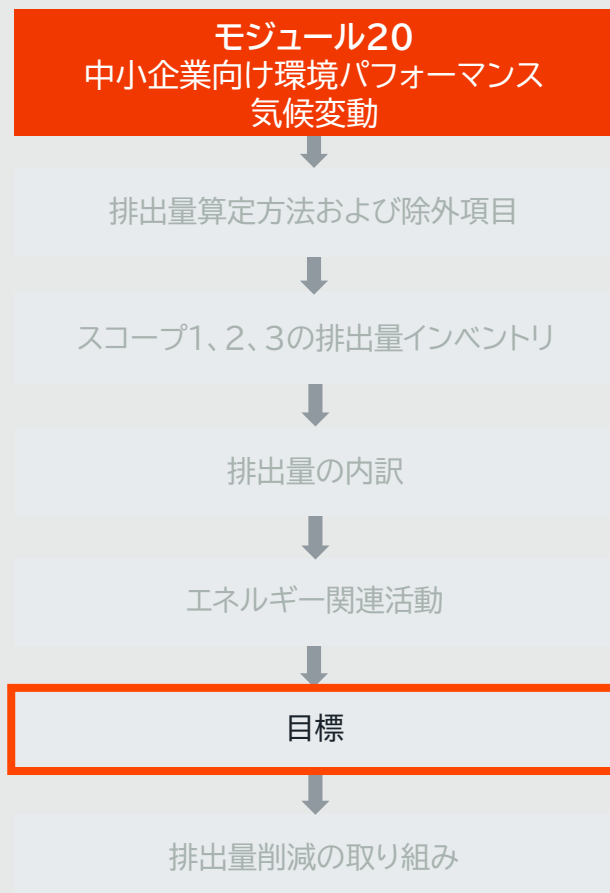
補足: サプライチェーンの要請を受けた企業にとって、これらは必要となる重要なデータポイントです



エネルギー関連活動



気候関連の目標



© 20.16 報告年度に適用した排出量またはその他の気候関連の目標はありましたか

20.16.1 排出の総量目標と、その目標に対する進捗状況の詳細を記入してください

© 20.16.2 貴組織の排出原単位目標と、その目標に対する進捗状況の詳細を記入してください

© 20.16.3 報告年に有効なその他の気候関連目標の詳細を記載してください

理由:これらのデータは、御社の目標を示すのに役立ち、その詳細はデューデリジェンスに不可欠です。

主要なデータポイント

- 目標設定日、対象範囲、進捗状況、達成率
- 基準年の総排出量
- 報告年度の総排出量
- 公式のSBTi検証書の添付（該当する場合）

主なデータポイント

- 目標設定日および終了日
- 対象範囲
- 包括的な取り組み



SME版公開回答例（20.16.1）

絶対排出量目標の詳細およびそれらの目標に対する進捗状況についてご提示ください。

対象参照番号	目標設定日	対象範囲	目標が対象とする範囲	スコープ3のカテゴリー	基準年の終了日	対象となるすべてのスコープにおける、目標の対象となる基準年の総排出量(メトリックトン CO2e)	目標の終了日	
行1	Abs1	2023-12-30	<ul style="list-style-type: none"> 全組織 事業部門 事業部門 拠点・施設 国・地域 その他(詳細を記入してください) その他(具体的にご記入ください) 	<ul style="list-style-type: none"> スコープ1(所有または管理下にある活動による直接排出量) スコープ2(購入電力、熱、蒸気、冷房による間接排出量) スコープ3(上流・下流のバリューチェーンにおける間接排出量) 	スコープ3、カテゴリー9 - 下流の輸送および流通 スコープ3、カテゴリー4 - 上流の輸送および流通	2022年12月30日	418122.3	2030年12月30日
基準年からの削減目標(%)	対象となる全スコープにおける目標対象期間終了時点の総排出量(メトリックトンCO2e)	対象となるすべての選定スコープにおける、対象年度での総排出量(メトリックトンCO2e)	基準年に対する目標達成率	報告年度における目標の達成状況	これは科学に基づく目標ですか？	Science Based Targetsイニシアティブによる公式検証書	目標の対象範囲を説明し、除外項目を特定する	
18	342860.286	412251.1	7.80	<ul style="list-style-type: none"> 新規 進行中 達成 達成済みかつ維持中 期限切れ 改訂 更新 廃止 	<ul style="list-style-type: none"> はい、この目標はScience Based Targetsイニシアティブによって承認されています はい、当社はこれを科学に基づく目標とみなしており、現在、Science Based Targetsイニシアティブによる審査を受けています はい、当社はこれを科学に基づく目標とみなしており、今後2年以内にScience Based Targetsイニシアティブによるこの目標の検証を求めることを約束しています はい、当社はこれを科学に基づく目標とみなしていますが、今後2年以内にScience Based Targetsイニシアティブによるこの目標の検証を求めることを約束していません <p>いいえ、ただし、別の科学に基づく目標を報告しています いいえ、ただし今後2年以内に設定する予定です いいえ、また今後2年以内に設定する予定もありません</p>	アップロードされたファイル	同社が設定した絶対目標には、中国国内にあるすべての工場が、一切の例外なく含まれています。スコープ3の目標には、上流の輸送・流通および下流の輸送・流通(スコープ1または2に含まれないもの)が含まれます。	

モジュール20の準備

- 過去の基準年と比較して排出量の削減を達成する必要があります
- 総量目標または原単位目標のいずれかになります。目標には次のものを含める必要があります。
 - 基準年、開始年、目標年
 - 目標がカバーする範囲
 - 目標達成対象となる基準年排出量
 - 基準年からの目標削減
 - 現在の進捗状況



必要となる可能性のある書類:

- 収益データ(排出原単位目標)
- 基準年の排出インベントリ
- 排出量予測
- 排出削減計画



排出削減の取り組み(イニシアチブ)

モジュール20
中小企業向け環境パフォーマンス
気候変動

排出量算定方法および除外項目

スコープ1、2、3の排出インベントリ

排出量の内訳

エネルギー関連の活動

目標

排出削減の取り組み

©

20.17 報告年内に実施した排出量削減の取り組みがありましたか。これには、計画段階及び実行段階のものを含みます。

©

20.17.1 報告年に実施された排出量削減の取り組みの詳細を以下の表に記入してください。

補足:これらのデータポイントは、通常の事業シナリオを超えて排出量を削減するという企業組織の取り組みを示すのに役立ちます。

主なデータポイント

- 取り組みの種類
- 削減が発生する排出範囲(スコープ1,2,3)
- 推定CO2削減量
- 必要な投資額(該当する場合)
- 年間コスト削減額
- 投資回収期間
- 推定耐用年数



すべての開示企業が優先的に回答する質問

アクション項目	質問(SME版)	質問(完全版)	この質問にご回答いただきたい理由
1. スコープ1、2、3の排出量を報告してください(できれば検証済みであること)	20.4、20.5、 20.7 – S1-3 20.8 – 検証	7.6、7.7、 7.8 – S1-3 7.9 – 検証	排出量の報告はベストプラクティスであり、環境への悪影響を理解し、削減するための前提条件です。検証によりデータの品質が保証されます。
2. スコープ1および2の排出量の推移について報告する	20.9	7.10	排出量の推移を報告することは、進捗状況を評価し、長期的なパフォーマンスをベンチマークするための有用な指標となります。
3. 排出原単位を報告するか、排出量を取引先に割り当てる。	20.12	7.45, 7.26	売上高単位あたりの排出原単位を報告するか、当社との取引に関連する排出量を割り当てることで、当社はサプライチェーン(スコープ3)の排出量をモデル化できます。
4. サプライヤーを含むバリューチェーンのステークホルダーと、御社がどのように関与しているかを共有する	18.3	5.11、 5.11.2、 5.11.5	御社の関与状況を理解することは、御社自身のスコープ3排出量への対応におけるリスク管理の実践および戦略を評価する上で、当社にとって有益です。



すべての開示者に対する優先事項

アクション項目	質問(SME版)	質問(完全版)	この質問にご回答いただきたい理由
5. 排出削減目標を設定する	20.16	7.53.1、 7.53.2	体系的な目標を設定することは、排出削減に対する御社のコミットメントと野心を示すものです。目標設定に関する追加リソースについては、 Science Based Targets Initiative (科学に基づく目標イニシアティブ)をご参照ください。
5. 設定したその他の気候関連目標を共有する	20.16.3	7.54	排出量以外の気候関連目標の詳細を共有することは、環境管理の包括性を示すものです。
6. 排出削減活動の報告	20.17	7.55.2	当社は特にサプライチェーンにおける排出量削減に関心を持っています。この質問は、御社が実施している取り組みや、それによるコスト削減効果を示すものです。また、取り組みが実施されていない場合は、その理由についても説明する必要があります。
7. 再生可能エネルギーの利用状況の報告	20.15.2	7.30、7.30.1	再生可能エネルギーの利用状況について報告いただくことで、当社はサプライヤーの排出量削減状況を把握することができます。
8. 協業の可能性について提案する	18.4	5.12	当社および／または御社の排出量を削減するために、協力できる方法を提案していただけます。この協力関係は、双方にとって有益な変化をもたらす可能性があります。



報告に関するヒント

- 空白のセル、誤り、不整合を避けてください。(0や「いいえ」と記入する方が、データが全くないより望ましいです。)

スコアリング基準とガイダンスを参照しながら質問書を確認し、各質問のすべての基準を満たしていることを確認してください。

- 質問書内の**本のアイコン(ブックアイコン)**をクリックして、各質問のガイダンスを開いてください。

定性的な回答については、明確な説明、根拠、および自社固有の回答を記載してください。

- ステークホルダーへの働きかけおよび質問書回答を担当する**チームメンバー**を特定し、**割り当ててください**。

Provide details of the environmental risks identified which have had a substantive effect on your organization in the reporting year, or are anticipated to have a substantive effect on your organization in the future.

Poor response – 0 points	Average response – 0 points	Good response – 1 point
Rising mean temperatures have the potential to negatively affect our operations.	Due to a rise in mean temperatures, there is a risk that the energy consumption needed for air conditioning and refrigeration will increase, leading to an increase in costs. There is a particular risk of energy consumption increasing at our shops, offices, and distribution centers.	60% of our plants are located in central America, an area that has been identified as likely being subject to large increases in mean temperatures. Such increases in temperature may lead to an increase in the energy consumption required for air conditioning and refrigeration to remain effective. This will lead to increased operational costs across our business.



4. SMEスコアリングの概要

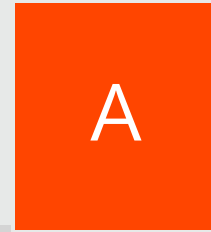


CDP SME版スコアについて

質問票の全項目において完全な報告と一貫した進捗を促進するため、**いずれかの評価レベルで最低要件を満たす必要があります。**

これらの基準に達しない場合、組織の最終スコアは直前のレベルに制限されます。

2026年については、SME質問書は**気候変動についてのみスコアリングされ**、フォレストおよび水セキュリティについてはスコアリングされません。



2026年より追加:
SMEリーダーシップ
採用する戦略や実施する行動において、高度な実践能力を示す

90%*

B

SMEマネジメント
適切な環境管理に関連する取り組みを実施していることを示す

90%*

C

SME認識
環境問題が自社の事業とどのように関連しているかについて、組織が包括的に評価していること

80%*

D

SME情報開示
組織の報告の完全性



2026年 SME スコアリングの概要

* スコアリング対象となった各環境課題領域について、CDPの各スコアリングレベルに適用される暫定的なスコアリング基準値。

スコアリングにおける重要ポイント

開示者の属性

- 完全またはSME？
- スコアリング対象提出期限(9月中旬)までに提出
 - 「Did not disclose」:CDPによる評価に必要な十分な情報が提供されていない。
 - 「Not scored」: スコアリング対象提出期限を過ぎてからCDPに回答した、またはスコアリング対象外である。

スコアリング基準

- 各レベルにおける必要得点の基準

スコアリングと重み付け

- 各質問およびレベルごとのスコアリング方法
- カテゴリーの対応付けと重み付け



注:CDPがサポートする言語(英語、日本語、中国語(北京語)、ラテンアメリカスペイン語、ブラジルポルトガル語)で提出可能です(スペイン語(スペイン)やポルトガル語(ポルトガル)であっても可)。質問14.1でこれを選択してください。「その他、具体的にご記入ください」を選択した場合、回答はスコアリングされません。

CDPのベストプラクティスとは？

16.3.1 – SME Scoring criteria - Climate change

SME Disclosure scoring criteria

ROUTE A)

For rows where 'Climate change' is selected in column 'Environmental issue the risk relates to':

Points will be awarded per completed cell in proportion to the number of rows disclosed. Partially completed rows will not receive full points.

A maximum of 5/5 points is available for this route.

OR

NOT APPLICABLE ROUTE)

'Climate change' NOT selected in column 'Environmental issue the risk relates to' in any row – 0/0 points

A maximum of 0/0 points is available for this route.

SME Awareness scoring criteria

ROUTE A)

For rows where 'Climate change' is selected in column 'Environmental issue the opportunity relates to':

Points will be awarded per completed row in proportion to the number of rows disclosed as follows:

Any option excluding 'Unknown' selected in either column 'Likelihood of the opportunity having an effect within the anticipated time horizon' OR 'Magnitude'.

A maximum of 5/5 points is available for this route.

OR

NOT APPLICABLE ROUTE)

'Climate change' NOT selected in column 'Environmental issue the risk relates to' in any row – 0/0 points

A maximum of 0/0 points is available for this route.

SME Management scoring criteria

ROUTE A)

Full SME Awareness points awarded - 1 point

A maximum of 1/1 point is available for this route.

OR

NOT APPLICABLE ROUTE)

'Climate change' NOT selected in column 'Environmental issue the risk relates to' in any row – 0/0 point

A maximum of 0/0 points is available for this route.

SME Leadership scoring criteria

Not scored.

CDPの評価手法を通じて、グローバルなベストプラクティスをより深く理解することができます

- 4つのレベルで評価：
情報開示→認識→マネジメント→リーダーシップ
- 満たすべき条件があり、場合によっては複数の経路や相互検証を伴う
- ポイント配分：分子と分母

Scoring - Point Allocation

16.3.1 – SME point allocations – Climate change

SME Disclosure numerator	SME Disclosure denominator	SME Awareness numerator	SME Awareness denominator	SME Management numerator	SME Management denominator	SME Leadership numerator	SME Leadership denominator
5	5	5	5	1	1	0	0



カテゴリのマッピングと重み付け

SME category mapping

The 13 climate change scoring categories for the 2026 SME scoring methodology are: Business Strategy; Context; Emissions Reduction Initiatives; Energy; Environmental Policies; Governance; Opportunity Disclosure; Risks and Opportunities process; Risk Disclosure; Scope 1, 2 & 3 Emissions; Targets; Value Chain Engagement; and Verification (Incl. Emissions).

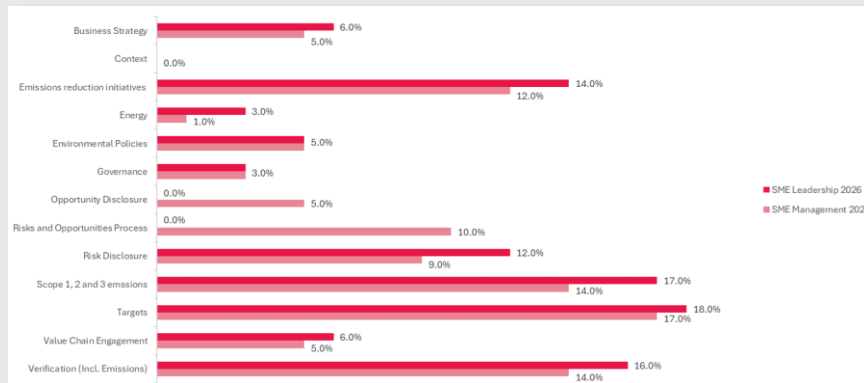
Module	Scoring Category	Question Number	SME Disclosure	SME Awareness	SME Management	SME Leadership
Introduction	Not scored	14.1	X	X	X	X
		14.2	X	X	X	X
		14.3	X	X	X	X
	Context	14.4	✓	✓	X	X
	Not scored	14.4.1	X	X	X	X
		Context	14.5	✓	✓	X
	Not scored	14.6	X	X	X	X
		14.7	X	X	X	X



スコアリングカテゴリとは、トピックごとに質問をグループ化したものです。



CDPの気候変動に関する中小企業(SME)評価手法には**13**のカテゴリがあります。



重み付けは、**SMEマネジメント**および**SMEリーダーシップ**レベルにおけるスコアリングカテゴリに**のみ**適用されます。



重み付けは、CDPのSME企業質問書および利用可能なスコアリング基準の範囲内で、各カテゴリの相対的な重要性を反映したものです。



ポイント：中小企業のリーダーシップ

リーダーシップレベルの主要モジュール

モジュール16 –
中小企業向けリスクと機会の開
示

・リスク開示 — 経営陣レベルでの
意思決定に有用な開示。

モジュール17 – ガバナンス

・ガバナンス — 気候変動問題に対
する取締役会／経営陣による監督。

・環境方針 — 組織の環境に対する
責任と説明責任を公に表明するこ
と。

モジュール18 – 中小企業向け
事業戦略

・中小企業向け事業戦略 — 全
体戦略に気候変動を組み込む。

・バリューチェーンへの関与 —

SMEリーダーシップ評価のポイント

16.1.1: 経営層レベルにおけるリスクおよび機会の開示
環境問題によって生じるリスクの**定量的な評価**を奨励する。

17.1.1: 気候問題に関する取締役会／経営陣による監督
環境問題に関する**報告を**、少なくとも**年1回**、**経営幹部**または**委員会**に対して行
うよう奨励する。

17.2.1: 経営陣承認の気候変動に関する方針
中小企業に対し、「100%再生可能エネルギーへの取り組み」および「**ネットゼロ
排出へのコミットメント**」を含む環境方針の策定を奨励する。
100%再生可能エネルギーへのコミットメントおよび「**ネットゼロ排出へのコミ
ットメント**」を含む環境方針を策定するよう奨励する。

18.2: 事業戦略への気候変動の組み込み
気温上昇の抑制目標に沿った、透明性の高い**移行計画**の策定を奨励する。

18.3: 気候変動に関するステークホルダーとの対話
多様なステークホルダーとの対話を促進する。



詳細な要件については、『CDPSME版質問書調査方法論』および『CDP中小企業スコアリング
カテゴリーマッピング2026』をご参照ください。

ポイント：中小企業のリーダーシップ

モジュール20 –
中小企業向け環境パフォーマンス
– 気候変動

リーダーシップレベルにおける要点

- 高度な測定
- 高度な説明責任

SMEリーダーシップ評価のポイント

スコープ1～3の排出量

- 20.1: 包括的な排出量報告および20.7: 方法論と境界設定の成熟度:
スコープ3を報告している組織を認識しつつ、堅牢なツールを用いてスコープ1および2の排出量を評価する。
- 20.9: 排出量の前年比透明性:
対象活動による**排出量の削減**を検証する。

エネルギー

- 20.15.1: エネルギーデータの品質と監視 および 20.15.2: 再生可能エネルギーの戦略的活用:
再生可能エネルギーの利用を促進する。

目標

- 20.16: 気候目標の策定、および 20.16.1: 対象範囲、および 20.16.2: 野心度と整合性
価値ある目標を設定し、報告された目標の妥当性を確認する。

排出削減

- 20.17.1: 戦略的取り組み: 排出削減イニシアチブによる**CO2削減量および財務的影響の推定**を奨励する。

検証

- 20.8: 排出量の外部検証: 組織に対し、**排出量の検証**を行うよう奨励する。



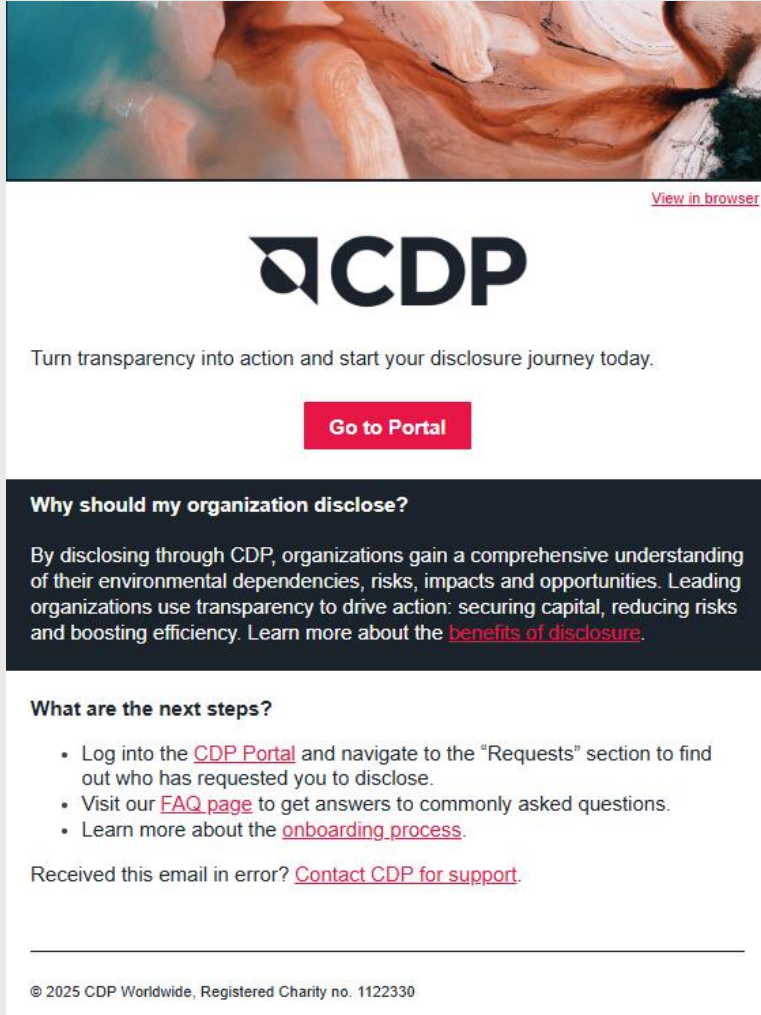
詳細な要件については、[CDPのSME版質問書方法論](#)をご参照ください。



5. 開始ステップと主なリソース、Q&A



すでにCDPに登録済みの方： 方法1：myportal.cdp.net にログインするためのメール



View in browser

CDP

Turn transparency into action and start your disclosure journey today.

[Go to Portal](#)

Why should my organization disclose?

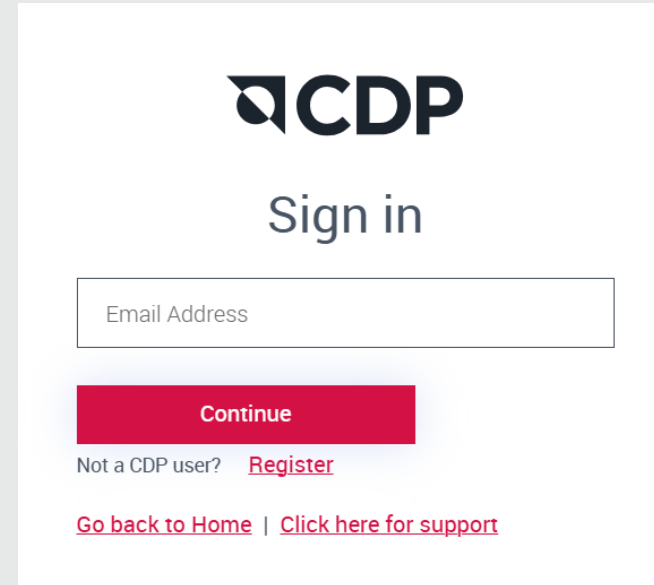
By disclosing through CDP, organizations gain a comprehensive understanding of their environmental dependencies, risks, impacts and opportunities. Leading organizations use transparency to drive action: securing capital, reducing risks and boosting efficiency. Learn more about the [benefits of disclosure](#).

What are the next steps?

- Log into the [CDP Portal](#) and navigate to the “Requests” section to find out who has requested you to disclose.
- Visit our [FAQ page](#) to get answers to commonly asked questions.
- Learn more about the [onboarding process](#).

Received this email in error? [Contact CDP for support](#).

© 2025 CDP Worldwide, Registered Charity no. 1122330



CDP

Sign in

Email Address

[Continue](#)

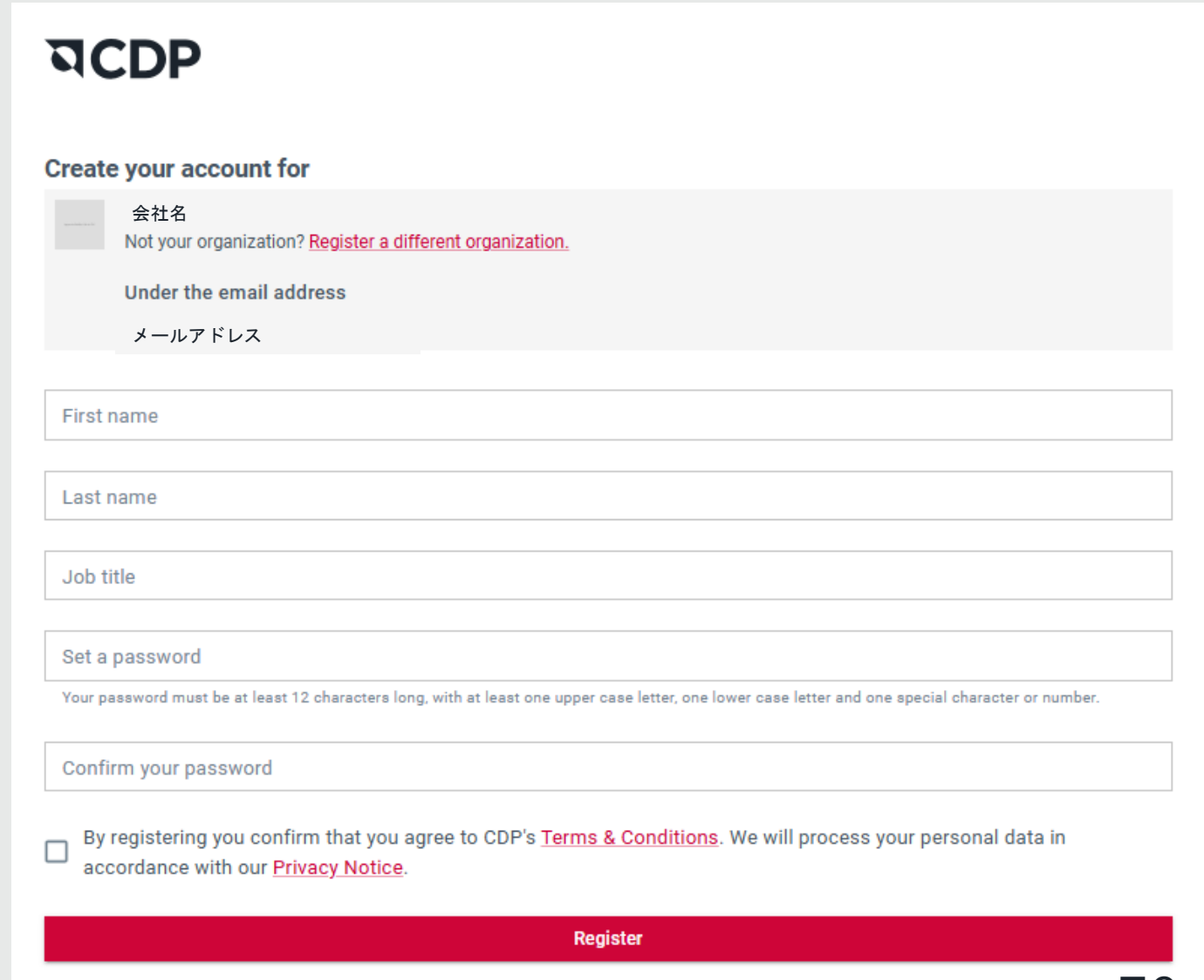
Not a CDP user? [Register](#)

[Go back to Home](#) | [Click here for support](#)

CDPへの連絡先登録方法:ルート2

アクティベーションリンク

- ・ CDPまたは要請元から、ユーザー名とパスワードを設定するための登録リンクが届く場合があります。
- ・ 会社名とメールアドレスが正しいことをご確認ください。
- ・ 登録を送信すると、ユーザー名(メールアドレス)とパスワードを使用して MyPortal.cdp.net にログインできるようになります。



The image shows a registration form for CDP. At the top left is the CDP logo. Below it is the heading "Create your account for". The form is divided into two main sections. The first section is for organizational information, with a label "会社名" (Company Name) and a text input field. Below this is a link: "Not your organization? [Register a different organization.](#)". The second section is for email information, with a label "Under the email address" and a text input field for "メールアドレス" (Email Address). Below these are four more text input fields: "First name", "Last name", "Job title", and "Set a password". The "Set a password" field has a note below it: "Your password must be at least 12 characters long, with at least one upper case letter, one lower case letter and one special character or number." Below the "Set a password" field is a "Confirm your password" field. At the bottom of the form is a checkbox with the text: "By registering you confirm that you agree to CDP's [Terms & Conditions](#). We will process your personal data in accordance with our [Privacy Notice](#)." At the very bottom is a red button labeled "Register".

CDPへの連絡先登録：ルート3

開示登録フォーム

Register to disclose

Thank you for taking the first steps to start your disclosure through CDP.

You should complete this form if your organization is disclosing through CDP for the **first-time** and require access to the CDP Portal to start your disclosure.

If you have colleagues with access to the CDP Portal, we encourage you to contact them instead, to assist with adding you to your organization's CDP Portal account directly.

Please complete this form in English as best as you can to ensure you are accurately matched to your organization.

Please select your purpose for this registration:

My customer(s) and/or CDP Capital Market signatories have requested my organization to disclose through CDP

My organization has not been formally requested to disclose by anyone but would like to disclose through CDP independently

I am part of a City, State or Region that would like to disclose through CDP

Find out more about [CDP Disclosure Requests](#)

開示登録の手順

CDPへの連絡先登録：ルート3

開示登録フォーム



CDP

顧客及び/もしくはCDPキャピタルマーケット署名金融機関によるCDP情報開示要請を受け取りました。

回答要請機関を選択ください。
複数機関からの要請がある場合、複数選択が可能です。

Clear All

個人情報
本詳細情報はCDPからのご連絡の際にも利用します。

名（英字表記）*

姓（英字表記）*

職場メールアドレス*

要請元である取引先のお名前
**正確に一致させるため、
要請要請に記載された組織名
を正確に使用してください。

組織情報
以下の情報は、貴組織を特定する際にご利用します。

組織検索 * ⓘ
組織名または9桁のDUNS番号を入力して検索してください。

組織名（正式な英字表記）

住所1

住所2

市区町村

郵便番号

国名 *
選択

組織ウェブサイトURL *

招待状で取引先が指定した
組織名を正確に使用してくだ
さい

組織の住所が正しいことを
確認してください

[リンク：「開示登録」フォーム](#)

CDPへの連絡先登録：ルート3

開示登録フォーム



Organizational Information

We'll identify you

Organization
Please search organization number

Organization
Who has requested you to disclose? *

You may select more than one option if applicable:

Address List
Clear All

Personal details

We'll use these details to communicate with you.

City
First Name *

Zip/Postal
Last Name *

Country of
Select
Email *

Website address *

Confirming and protecting your data

I confirm that all the information I entered above is correct and accurate.

I consent to CDP processing my personal data in line with its [Privacy Notice](#).

CONFIRM SUBMISSION

- 要請元である取引先の組織と一致するものが見つからない場合には、組織名 + DUNS番号を明確にするため、要請元にご連絡ください。
- 提出後、CDPは最低5営業日かけて処理します。
- 手続きが完了すると、mail@cdp.net から、ポータルへのログインを設定するためのアクティベーション・リンクが記載されたEメールが届きます

* 迷惑メールフォルダもご確認ください。また、**mail@cdp.net** が組織のIT部門によってホワイトリストに登録されていることをご確認ください。

開示スタートのために重要な手順

- ①開示者として新しいCDPポータルにアクセスする
(<https://help.cdp.net/ja-JP/knowledgebase/article/KA-01015>)
- ②既存の開示者または要求者としてチームメンバーを追加または編集する方法
(<https://help.cdp.net/ja-JP/knowledgebase/article/KA-01016>)
- ③企業向けCDPポータル導入手順
(<https://help.cdp.net/ja-JP/knowledgebase/article/KA-01027>)
- ④質問書設定ガイド (英)



SME版のリソース

リソース	リソースへのリンク
CDP開示ポータル	myportal.cdp.net
質問書プレビュー、 SME版CDP評価方法論	企業向けガイダンス - CDP
開示ワークショップ	CDPワークショップおよびウェビナー - CDP
温室効果ガス(GHG)排出量の算定	SME Climate Hub 計算ツール: https://smeclimatehub.org/start-measuring/ 算定方法:温室効果ガスプロトコル (英)
SME版目標設定ガイダンス	SME版目標検証サービス (英)
SME Climate Hubアカデミー	https://academy.smeclimatehub.org/home (英)
プラットフォームに関する問題についてのCDPヘルプセンター	ホーム - CDPヘルプセンター



サポートウェビナー

関連セッションにご参加ください -

SMEシリーズ: フォレスト・水セキュリティに関する情報開示

地域	言語	ウェビナーページ
アジア太平洋	英語、韓国語	登録または視聴はこちら
中国	中国語	登録またはこちらから視聴
ヨーロッパ、中東、 アフリカ	英語、フランス語、ドイツ語、イタリア語	登録または視聴はこちら
日本	日本語	登録または視聴はこちら
ラテンアメリカ	ポルトガル語	登録または視聴はこちら
ラテンアメリカ	スペイン語	登録または視聴はこちら
北米	英語	登録または視聴はこちら

スコアリング対象となる
回答提出期限
2026年9月14日週



本日はご参加いただきありがとうございました。

ご不明点ございましたら、ポータルにサインイン後、
ヘルプセンターよりお問い合わせください。



よくある質問(算定などについて)

Q: Scope2に関して、ロケーション基準・マーケット基準どちらを報告すればよいですか？

A: もしマーケット基準を算定している場合、両方報告することが推奨されます。

Q: 排出量について、第三者検証を受けたほうが良いのでしょうか。

A: はい、年々要望は高まっており、受けることが推奨されます。

CDPで認めている第三者検証の基準については、[こちら](#) をご参照ください。

Q: 全部の事業に関して排出量を報告する必要がありますか？

A: 全部の事業・拠点に関して排出量を報告する必要はありません。ただし、その場合は算定から除外した ものについて、報告をする必要があります。除外したものについては、20.3、20.3.1を用いて報告をしてください。



よくある質問(質問書について)

Q:自社の回答は、CDPのホームページなどで公開されるのでしょうか？スコアについても教えてください

A:自社回答の公開・非公開は選択することができます。SMEスコアについては非公開です。スコアと回答は、要請したサプライチェーンメンバーにはデータプロダクトを通じて共有されます。

Q:質問書の設定では売上をUSDで報告していますが、質問書に用いる通貨は日本円でもいいですか？

A:14.2では、回答全体を通じて財務情報の開示に使用する通貨を選択することができますが、その際に日本円を選択いただき、質問書全体の財務情報については日本円でご報告ください。

Q:説明いただいたSME版の閾値を超える場合もSME版質問書で回答したいです

A:ご不便をおかけしますが、閾値を超える場合、SME版を選択する選択肢は表示がなされません。完全版でご回答をいただきますようお願いいたします。

